



友愛

題字 学園創始者元理事長故実川 博書



社会福祉法人友愛学園

広報誌 VOL31

発行日 平成30年 3月26日

発行人 社会福祉法人 友愛学園

〒198-0001 東京都青梅市成木2-107

電話 0428-74-5453

FAX 0428-74-6906

http://www.yuaigakuen.or.jp/

創立六十周年を経て

理事長 柘植吉治

昨年は友愛学園の誕生から六十年を経過する年となりました。多くの方々のご協力と、役職員の英知を駆使した記念行事を経て、新しい次の時代への橋渡しの役割をいくらかでも果たすことができたものと思っております。記念行事のメインとして行いました“記念誌”の発行を通して、創立以来の大きな節目となりました創立五十年以降の十年間の歩みを振り返って見たことの意義は大きなものであったと思っております。この間においては、社会福祉制度が開關（かいびやく）以来ともいえる内容で改訂されました。法人事業においてもその規模と内容の拡張が進んだ十年間でした。これらのことを振り返り今後の道筋を明らかにすることに努め、一定の結論を纏めることができたものと考えます。今、法人の経営環境は大きく揺らいでいるともいえます。それは高齢化社会の進行が急激に進み、それに対する国の施策は必ずしも安定し

ているとはいえず、ともすると福祉関連経費の削減が唯一の目的となつたかの印象も見受けられる状況となつているからであります。

こうした条件の中での社会福祉法人の経営が容易ではないことは確かにありますが、このときこそ“流れに流される”ことなく独自の発想と実践が必要とされるのではないのでしょうか。当法人は、六十年にわたる歴史の中で、いくたびか経営上の困難を経験しそれを乗り越えて来た実績を有しています。今こそ、その歴史を掘り起こし、それに学びながらも新しい道筋を力強く進む決意を固めたいと思えます。



法人事業一覧

児童部

- 障害児入所支援
- 短期入所

とことこ

- 放課後等デイサービス

成人部

- 施設入所支援
- 生活介護
- 短期入所

おおぞら

- 指定一般相談支援
- 指定特定相談支援
- 障害児相談支援

◆すてつが小中尾「とも」

- 障害者グループホーム

青梅福祉作業所

- 就労継続支援B型
- 就労移行支援
- 自立訓練（生活訓練）

青梅市障害者就労支援センター

- 青梅市受託事業

はあとぴあ原宿

- 渋谷区障害者福祉センター
- 渋谷区受託事業
- 施設入所支援
- 生活介護
- 短期入所
- 児童発達支援
- 日中一時支援

渋谷エリア

渋谷区障害者福祉センター 代々木の杜ピア・キッズ

- 渋谷区受託事業
- 児童発達支援
- 放課後等デイサービス

1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
63	64	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60

成人部
全面改築

児童部
全面改築

ほっぷ
すてっぷ
開設

青梅福祉作業所

はあとびあ原宿
青梅市障害者就労支援センター



式典を進行する菅井事務局長

五十周年記念事業からの十年間は、その数年前に当時、都内では事例がほとんど無い新築のグループホームを開設したことを皮切りに、平成十九年に青梅福祉作業所の運営を東京都から移譲され、平成二十年にははあとびあ原宿を渋谷区から、青梅市障害者就労支援センターを青梅市から受託するなど、法人事業が拡張していく期間でもありました。また、職員の世代交代が進みました。



左から山本理事・板垣理事・寺崎理事
・山川理事、柘植理事長



柘植理事長の挨拶



浜中青梅市長の祝辞

「五十周年から六十年周年の十年間をしっかりとふりかえり、それをこれから十年間の着実なあゆみにつなげていく」ということが今回の式典の一番重要なテーマでした。



大越青梅市社会福祉協議会
会長の祝辞



長谷部渋谷区長の祝辞
(藤野福祉部長の代読)

職員実践論文表彰

中堅職員として真摯に支援に取り組んでいる職員から論文を募集しました。八編九人の職員から応募があり、後援会長として長い間、友愛学園にご指導お力添えいただいた岡本先生、第三者委員として長く学園の発展に関わっていただいた中山先生に選考していただき、理事賞、優秀賞各一名、入選に二名が選ばれました。受賞者が代表して挨拶をしました。



論文選考委員
中山先生
白梅短期大学教授
実習指導センター長



論文選考委員
岡本先生
元明星大学教授
現青梅市障害者
サポートセンター施設長



入選
成人部 生活介護
YUAI工房 副主任大矢将司



入選
成人部 地域生活支援
主任 水島聖子



優秀賞受賞者挨拶
はあとびあキッズ
主任 山内めぐみ



理事長賞
はあとびあ原宿 生活介護
音楽療法士 小澤恵子

1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987
32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30

法人設立

青梅市に移転

成人部開設



元協力会会長野口様からの祝辞



元副理事長の坂本様からの祝辞



乾杯は前青梅福祉作業所所長 小山評議員



開会の辞は前事務局長 山川理事



祝宴は、内山児童部施設長が進行しました。



開会の辞は寺崎理事

成人部施設長、事務局長を歴任してほつぷや青梅市の初グループホームの開設、成人部大規模修繕、青梅福祉作業所の委譲、青梅市障害者就労支援センター、はあとびあ原宿の受託など執行部の先頭に立たれた山川理事、青梅市自立センターの設立、青梅福祉作業所の友愛学園移譲における立ち上げにご尽力いただいた小山評議員、市の歴史に造詣が深く、青梅市の行政経験を活かし、学園の会計をはじめ経営にお力添えいただいた坂本元副理事長、学園が青梅市成木に移ってから、その成木の地元として、また協力会として支えてくださった野口様、柘植理事長の朋友でいらして、障害者福祉の知恵袋である寺崎理事、温かいお祝辞、ありがとうございます。



元友愛学園の職員で合唱でも活躍した板垣理事と理事長の軽快な掛け合いです。



学校に校歌があるように友愛学園にも学園歌があります。しかし、それを知っているのは、ごくわずか…。理事長のたつての願いで、三宅はあとびあ所長が楽譜おこしをして、復刻合唱が実現しました。



音楽療法の指導者でもある三宅所長の演奏



2
あついとときにも、まけないであつまりたのしく、たすけあい
そうだきぼうの、ゆめがある
いつもほんとうに、友愛の
喜びあふれ、わくところ

1
さむいときにも、まけないで
みんながなかよく、手をつなぐ
そうだげんきに、あたたかく
いつもやさしく、友愛の
心の花のさくところ

友愛学園歌
作詞 土屋忠司



うれしそうな表情です。次世代が歌っていないと……。

29.11.3
第42回
友愛
学園祭

十一月三日、今年も好天に恵まれさわやかな秋晴れのなか、第四十二回友愛学園祭が開催されました。

地域にお住まいの皆様をはじめとし、来賓、利用者ご家族、近隣の福祉施設・作業所関係者など、たくさんの方々のご来場をいただき、盛況のうちに終わることができました。

今年で友愛学園創立六十周年と



なり、学園祭では記念品として、六十周年を明記したボールペンを作りました。
ステージでは、児童部、成人部



の利用者が練習の成果を發揮しました。また、バンド演奏や、神代太鼓による迫力ある太鼓演奏で会場が盛り上がっていました。



模擬店では、うどんや焼きそばをはじめ、やきとりやアイスマースマまで売りが続出するにぎわいとなりました。暖かい陽気であったため、冷たい物がたくさん売れました。
地域の参加団体、「なかま亭」「かもんみーる」のブースも人気でした。

バザー売り場は、今年も盛況でした。毎年、多数の物品を提供していたいただきありがとうございます。会場のテーブルも満席となり、食事を摂りながら、ステージのパフォーマンスを楽しまれました。

当日、約五十名のボランティアの方々にご協力いただきました。ご協力くださいましたボランティアの方々、ご来場くださいました方々に感謝申し上げます。

来年度の友愛学園祭も、多数のご来場をお待ちしています。

(成人部 島田健史)



は
あ
と
び
あ
原
宿

児童発達支援事業

児童発達支援事業では、行事を活用した療育を行っています。その一部をご紹介します。いただきます。

●代々の杜ピア・キッズ

十月はハロウィンパーティーを行いました。子どもたちは自分で作った衣装を着て、事務所にお菓子を貰いに行きました。職員も仮装をして、子どもたちとのやりとりを楽しみました。



一年を締めくくるのはクリスマス会。「サンタパズル」をみんなで協力して完成させました。音楽担当の職員の歌うクリスマスソングを、子どもたちもリラックスして聴いていました。

●原宿はあとびあキッズ

はあとびあキッズでの楽しいクリスマス会は、今年もサンタさんが素敵なプレゼントを運んで来てくれました。サンタさんがちよつと怖かつ

た子どもも、お髭に触るとふんわりと気持ちよかったです。



●日中一時支援事業

十周年記念のはあとびあ祭では、利用する子どもたちの作品や活動を紹介します。ブースを設け、子どもたちと職員の熱い思いが溢れた展示を行いました。 (副所長 平井眞琴)

【はあとびあ作品展】

第八回はあとびあ作品展『柿八展 (かきはちてん)』を三月二日 (金) ～六日 (火)、渋谷区文化総合センター大和田二階『ギャラリー大和田』において開催しました。

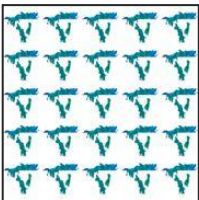


【シブヤフォント】

渋谷区役所と桑沢デザイン研究所 (デザイン専門学校) の学生、そして渋谷区内の障害者支援施設が協力して取り組んできた「渋谷みやげ開発プロジェクト」から生まれたのが『シブヤフォント』。障害者が描いた文字や数字を桑沢デザイン研究所の学生がデザイン。だれでもダウンロード (www.shibuyafont.jp) して使用することが出来る個人的なフォントです。



はあとびあ原宿は、プロジェクトが始まった平成二十八年度から参加しています。平成二十九年度は、二名の学生が毎週工房活動に参加し、フォントだけではなく、グラフィック素材も作成してくれました。ぜひ、はあとびあ原宿の利用者と学生が作成した作品を見てもらえたらと思います。



【ありがとうございます】

今年度も公益社団法人東京都宅地建物取引業協会渋谷区支部から、成人日中活動には、音楽療法で使用される「デジタルピアノ」と、運動で使用する「エアレックスマット」を、はあとびあキッズにはパーティーションとしても使用できる「落書きボード三連式」をそれぞれいただきました。日中活動や子どもたちの療育のために、大切に使用させていただきます。 (副所長 渡部光行)



児童部

【年末行事】

児童部の年末行事と言えばクリスマス会があげられます。昨年も十二月二十三日に行いました。当日は午前中に保護者懇談会も設けたことで多くの保護者様の参加もいただき盛大なパーティーとなりました。また、ここ数年恒例となっているサンタクロース役を保護者のお父様にお願いをすることで、てつきり職員がやるものだと思っている子ども達には「本当にサンタが来たのか」と驚きを提供することになります。



今年も、子ども達によるダンスや歌の披露の他、ボランティアさんによる腹話術やオルゴール演奏などで盛り上がりました。何ととってもサンタさんからのプレゼントではこの日一番の歓声が上がります。

そして今年ももう一つ年末に行事を行いました。例年、二月の第一土曜日に実施してきた「お餅つき」を本来の歴であるお正月に合わせて十二月二十八日に実施をしました。

大寒を過ぎたとは言え二月上旬は、まだまだ寒さもきつく、インフルエンザなども流行る時期です。低年齢化している入所児童の傾向を見てもここ数年の様子から子ども達もこれを機に体調を崩すことや風邪をひく子などがいました。

それでも子ども達には、その四季や季節を感じることで、日本の慣習行事を味わってもらいたいという思いは、職員みんなが思っていることです。行事を仕切る担当職員にとってはクリスマス会の直後に次の行事の段取りをする大変さはあるものの、時期を早めての開催に踏み切った理由です。



子ども達は全員が杵をつきます。大きい子は自分の力で上手につくことができ、男の子は大人顔負けの力です。そして、今回の餅つきもまたつき手にお父様、ちぎりや盛り付けにお母様と言った保護者様がお手伝い下さいました。

子ども達にとっては楽しい行事が立て続けに行われ、健康に笑顔あふれる年越しとなりました。

(児童部副施設長 石川 淳)

成人部

【桑刈り】

二〇一七年十二月二日、桑刈りを実施致しました。例年、二日間でおこなっていましたが、今年は一日のみでの実施となりました。



毎年冷え込みが激しく、とても寒い中での作業ですが、今年も天候も良く、汗ばむほどでした。百人を超えるボランティアさんに

ご協力を頂いています。一日のみの実施でしたが、皆様のお昼休憩もそこで切り上げ、作業をしてくださいました。夕方からは、食事と飲み物を用意し、慰安会を開かせていただきました。ボランティアの人数が多く、大盛り上がり



「桑刈り」が無事に終え、ご協力くださいました皆様に、感謝申し上げます。

【クリスマス会・忘年会】



年末年始の行事、餅つきに關しては、成人部の高齢化により、特別食を食している方が多く、餅の提供や餅をつくことが難いため、見合わせています。その代わりに、クリスマス会や忘年会を全体で盛大におこないました。

【初詣・新年会】

新年には各ユニットで初詣に出かけ、新年の祈願をしてきました。利用者も手を合わせ、頭を深々と下げました。新年会は、職員も昼食を利用者と一緒に食べ、今年の抱負などを皆で話していました。

(成人部生活支援主任 島田健史)



青梅市
障害者就労支援センター

【障害を持つ方の防犯講習会】

毎年、登録者交流会にてカラオケやクリスマス会等を開催してきました。今回は今までと志向を変えて、『障害を持った方が犯罪に巻き込まれないように、また加害者にならないように』するために、登録者交流会及び法人による地域貢献事業の一環として『青梅警察署による講習会』を開催しました。

十二月十日の午前中という早い時間帯からでしたが、当センター登録者やそのご家族の他、地域の障害者を持った方やそのご家族、福祉関係者等、五十一名の大勢の方にご参加いただきました。

講習会では青梅警察署 生活安全課 防犯係長より、インターネットやスマホによる犯罪についてDVDを交えてお話しいただきました。防犯活動アドバイザーからは市内の防犯状況についてお話しいただきました。手軽なインターネットでは、身近な人の悪口を書く『誹謗中



傷』が多く、匿名で書き込んでも警察で特定でき、刑事罰の対象になること、インターネット等に侵入する「ウイルス」により『身代金ウイルス（ランサムウェア）』被害に遭い、スマホ操作が不能になる、お金を騙し取られる、重要なデータを抜き取られる事があることを教えていただきました。

身近な犯罪では、昨年の市内の万引きが一〇三件あり幅広い年齢の犯罪だったこと、自宅侵入が三十二件あったことを教えていただきました。被害のあった家の四十七％が無施錠とのことで、戸締りの重要性を改めて実感しました。他、無施錠の自転車の盗難が多くあり、駐輪場の施錠の必要性を教えてくださいました。スマホ等の犯罪や詐欺は日々巧妙に変化しているようなので、最新情報を収集し自己防衛することが必要とのことでした。



お土産にいただきました

質問では『痴漢と間違われないようにどうしたらいいのか？』『不審なメールが届くが、アドレスを変えた方がいいのか』等身近な質問が多くあり、時間が足りないほどでした。今後のことは未定ですが、アンケートの結果を参考に身近な内容を検討してゆきたいと思えます。

(副主任 橋本文恵)

青梅福祉作業所

今期の冬は記録的な寒さに加え、雪も降りました。一月二十二〜二十三日の雪は、青梅でも所により二十センチ近く積もる雪でした。

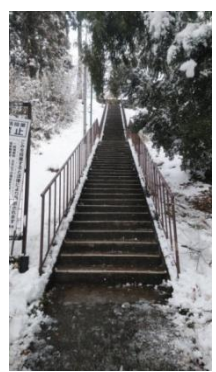
利用者は現在、七市二町から通ってきているので、鉄道では青梅線はもとより、中央線、奥多摩線、青梅線、五日市線を、バスでは武蔵村山市から乗車している人もいます。そのため、交通機関に影響する雪が降ると通ってこれない人が多く、二十三日は約四十名の方が休みました。

当作業所は東青梅駅から徒歩十数分の立地なのですが、途中で多摩川の河岸段丘があるので、必ず坂を通ります。また、利用者の方の多くが利用する段丘を一直線に昇り降りする階段は積雪時の難所となります。



河岸段丘の階段は、利用者の方達にとって予防介護の役割が大きいという記事を以前載せました。大きく回り道をする坂道もあるのですが、距離も時間も短いルートなので、老若男女を問わず多くの住民の方々が利用されています。

上の写真は作業所から見える階段です。段差は三十センチくらいあるでしょうか。河岸緑地保全帯の中にあるので木々に囲まれているため、道路に比べると積雪しないのですが、むしろ、その後の凍結が大変怖い階段になるのです。凍ってしまうと、なかなか解けないからです。



積雪時には転倒事故などを防止するために各所に職員を配置しますが、二回目の積雪時は朝から凍結のおそれがあったので、スコップを持って安全確保をしました。遅れてくる利用者の方もいるので約二時間くらいその場にいたので、雪かきをしながら利用者の方の通過を見守りました。

当作業所が都立時代の時はみんなで掃除をしていたことを聞きました。障害のある方達は全ての面で弱者ではありません。今回は職員ひとりで掃除しましたが、そうだった！利用者の方達と階段掃除をしてみようと思えました。利用者の方達と取り組む地域貢献ですね。

(所長 福田和弘)

トピックス

◆定例理事会

十一月二十五日（土）

＊平成二十九年度第一次補正予算に関する件

＊改正議案 経理規程・非常勤就業規則及び共同生活

援助世話人就業規則・育児・介護休業規程・個人情報保護規程・すてっぷ小中尾運営規程

＊青梅福祉作業所自立訓練事業の廃止に関する件

◆平成二十九年度虐待防止

・権利擁護研修

十二月一日（金）

講師鈴木 敏彦氏（和泉短期大学

児童福祉学科 教授・神奈川県立支援協議会会長）

対象者は法人職員の他に西多摩地域の施設等職員に拡大した公開講座でした。



座学だけではなく、グループワークや発表をして受講者が主体的に参加する進め方でしたのでみなさんは真剣に取り組んでいました。

特にやまゆり園事件の将来構想に伴う意思決定の講話は実践者である講師ならではの説得力がありました。

◆交通安全講習

十二月六日（水）

業務で自動車の運転をする機会が多い職員を対象として講習会を開催しました。

◆管理職研修（主任以上）

一月十五日（月）

「LGBTの困難と

最新の社会動向」

講師 原 ミナ汰氏（NPO

法人 共生社会をつくるセク

シヤル・マイノリティ支援全

国ネットワーク代表）

短い時間でしたが、導入研修となりましたが、知っているようで実

は知っていないということに気づかされた研修となりました。



◆二〇二三年目の職員を

対象とした研修

二月十六日（金）

階層別研修では対象から外れてしまいがちな職員をターゲットにした研修でした。



人数を絞り込み、講師を招聘せず、施設長と副施設長がファシリテータ

ーとして関わる新しい試みでした。また、他事業所の職員が訪問する機会がとて少ない青梅福祉作業所を会場にしたことも相互理解という視点では意味あることでした。

◆定例理事会

三月十七日（土）

＊平成二十九年度最終補正予算

＊平成三十年度事業計画

＊平成三十年度予算

＊改正議案 定款変更・本部事務局の組織及び運営に関する規程・給与規程・青梅福祉作業所運営規程

＊代々木の杜 障害児相談支援事業の実施の件

＊管理職の人事に関する件

編集後記

毎年感じるのですが、一月～三月は一ヶ月の如しです。今年には特に報酬改定を直前とした年度末でしたから、なおさらです。広報誌の編集は、十六年ほど前に一度やらせていただきました。今回担当させていただきました、強く感じたことは手前味噌で恐縮ですが、学園の組織力が向上したことです。法人主催の研修も内容が濃くなってきています。実は広報誌の裏目的として読者対象に職員も含んでいます。組織は生き物です。各事業所ががんばっている職員こそ全体を見渡す目を持ってもらいたい、そういう意図を秘めていました。